

城崎地区コミュニティ設立準備委員会



城崎地区

地区の概況

人口	3,519人	小学校	城崎小学校（児童数 135人）
世帯数	1,537世帯	中学校	城崎中学校（生徒数 81人）
高齢化率	37.5%	幼稚園	なし
集落数	31	保育園	なし
		こども園	城崎こども園（園児数 147人）

組織の状況

代表者名 宮下 隆司

会の構成 町内会長会、公民館、城崎こども園、城崎小学校愛育会、城崎中学校PTA、消防団、体育協会、文化協会、老人クラブ連合会、スポーツクラブ21、農会長会、観光協会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、公募・会長推薦（計29名）

これまでの経過

*平成27年4月モデル開始

	これまでの取組み	主な内容
H 26	10月 町内会長会 各部別説明会	各部の検討委員選出
	11月 コミュニティ検討会（3月まで5回開催）	モデル地区の考え方、準備委員会・支援員の候補
H 27	4月 設立準備委員会設置準備	規約、予算（案）協議
	5月 設立準備委員会委員の選出 各町内訪問説明会開始	
	6月 第1回設立準備委員会	委員会の規約、役員の決定、事業計画について
	7月 第2回設立準備委員会	意見交換、グループ協議
	8月 城崎ふるさと祭りでコミュニティPR活動	内川地区の果物・農産物・もろこなど販売促進
	9月 第3回設立準備委員会	健康ポイント制度の説明
	10月 第4回設立準備委員会	アドバイザーより地域づくりの進め方
	11月 城崎中学校訪問説明会 第5回設立準備委員会	小中学生へのミニ講座と意見交換 城崎の資源×課題 解決のアイデア出し
	12月 健康ポイントの独自チラシ作成配布 第6回設立準備委員会	協力：市健康増進課 課題解決のワークショップ
	1月 第7回設立準備委員会	女性視点、町内を超えた連携実習、委員交流会
H 28	2月 第8回設立準備委員会	活動報告とこれからの展開
	3月 城崎地域コミュニティのあり方研修 第9回設立準備委員会	主に新加入委員と振興局職員対象 組織構成などテーマ別協議

分野別取組み内容

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①機関紙「KINO コミュ通信」発行 ②防犯パトロール ③あいさつ立ち番 ④歴史探訪の旅 ⑤城崎見てあるき ⑥プロジェクトC ⑦ふるさと祭りにて特産品PR活動 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ①1月3日城崎大火についての消防団の説明今後の対策 ②自主防災組織の拡充 ③見守り隊
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①福祉祭りへの参加 ②城崎楽々むらまつり参加 ③健康・環境ポイント制度の取り組み 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①城崎地域運動会 ②バレーボール大会 ③野球大会 ④グラウンドゴルフ大会 ⑤城崎文化のつどい ⑥顔見知りラジオ体操 ⑦城崎中学校へコミュニティ訪問説明会 ⑧公民館各種教室

コミュニティの取組み



まずはコミュニティの活動を住民の皆さんに知ってもらうことが大切だと考え、31 町内会を対象としたコミュニティの訪問説明会や、小中学生対象の出前講座を開催しました。

また、機関紙「KINO コミュ通信」を2か月ごとに発行し、城崎地区全戸に配布しています。これまでに発行したものは、人口減少を伝える図表やワークショップの結果、市主催のコミュニティに関する講演会の概要などをお知らせしています。人物取材コーナーでは、読みやすさを

認識して、インタビュー形式で記載しています。ぜひ、ご覧ください。

事務局内では、情報共有シートでそれぞれの考えや個別活動の「見える化」を図りました。考え方に多少の違いがあっても、大筋の方向性がそろっていれば構わないというスタンスで理解を深めています。さらにコミュニティ準備会長と城崎振興局の担当課長は、ほぼ週1回のペースで意見交換を重ねています。

各区に説明に回っていますが、「なぜ新しい地域コミュニティが必要なのか？」という声が多く聞かれます。年々人口が減り、市職員が減り、福祉や社会保障にお金がかかる…。「役場依存」から脱却し、「自分たちのことは自分たちで」何とかしなくてはなりません。0を1にするのは大変で、まるで井戸を掘るかのようです。これからもコミュニティと城崎振興局がお互いにしっかりと連携して進めていきたいと考えています。



宮下隆司さん
(同準備委員会 会長)